

Q20 遊びの技術、ルール理解に関する対応

〈このような状態は自閉症の特性からきています。〉

A君は小学5年生です。休み時間に遊ぶことは大好きなのですが、友だちから何気なく言われたことや、ちょっとした注意で、どうして自分ばかりこんな目に合うのだろうと腹を立てたりします。それは特にスポーツ等の遊びによく見られます。

自閉症の子どもに併存しやすいのですが、運動能力の弱さが「ぎこちなさ」となって表れることがあります。歩き方や走り方、ボール遊び等も、そのぎこちなさから苦手だったりします。また、手先の動作が不器用なこともあります。子どもによっては、強い劣等感を感じていることがあります。さらに遊びのルールやゲームの理解が難しく、集団での遊びやゲームへの参加が苦手な場合があります。

〈このような場合の支援 1〉

小学校6年生の知的障害を伴う自閉症の男児。体育の時間や休み時間等では、自分の順番が来るまで列に並んで待つことができず、列を離れたり違う遊びを始めたり、列の前の方に割り込んでしまうことがあります。このような場合、支援の方法としては以下のようなことが考えられます。

- ① 日頃から、「順番を守る」ことはどういうことか、様々な場面を利用して指導する。
- ② 自分は誰の次なのか、自分の前の子の肩に手を置くなどさせて、わかりやすく指示する。
- ③ あと何人になったら戻ってくるという約束をし、「あと〇人になったらよ、戻ってきて」と声をかける。待つ人数を徐々に増やしていく。
- ④ 少しでも我慢して待てたら大いにほめる。また少しでも長く待てるように言葉かけをする。

〈このような場合の支援 2〉

小学校5年生の高機能自閉症の女児。一人で遊べるゲームが大好きです。時には友達と仲良くゲームで遊んでいたと思うと、自分でどんどんルールを変更したり、負けることを嫌がったりします。このような場合、支援の方法としては以下のようなことが考えられます。

- ⑤ ゲームのルールや遊び方、順番等を、わかりやすい手順カードを利用してていねいに説明する。
- ⑥ 学級全体で取り組むイス取りゲーム等では、負ける人が出ても仕方がないことなどを事前に説明する。
- ⑦ ゲームの内容によっては、教師の個別的な支援も必要。
- ⑧ 負けてしまい、自分で感情を押さえられず興奮して泣き出すようだったら、時には意図的に知らないふりをする。なだめたりせずに、本人が落ち着くまで待ってから指導する。

学級担任の記録(メモ)

<項目の利用回数>



月／日	対象児の問題	教師やクラスの子どもの対応	対応後の対象児の様子